

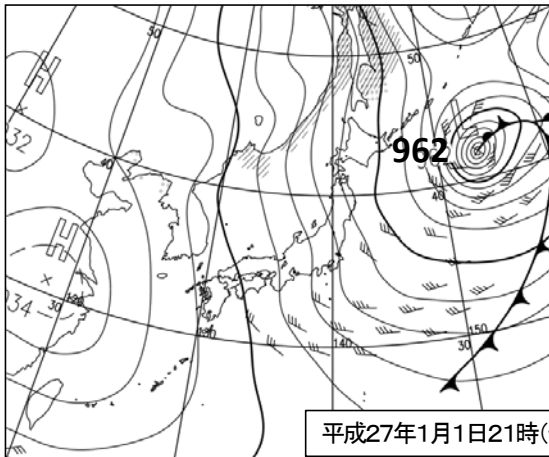
## 【国民への呼びかけ】

- 31日から1日にかけては、東北地方から西日本の沿岸部を中心に非常に強い風が吹き、日本海側では猛ふぶき、海上は大しけとなる見込みです。その後、1日から3日頃にかけては、北日本から西日本の日本海側を中心に大雪や猛ふぶきとなるおそれがあります。西日本の太平洋側や東海地方の平地でも積雪となる所がある見込みです。
- 暴風雪による吹きだまりや局地的な大雪により、道路において、視界不良による走行不能、積雪等による立ち往生が発生するおそれがあります。なだれや屋根等からの落雪、路面の凍結、着雪による停電や倒木にも注意が必要です。
- 過去の類似の気象条件では、平成22年12月31日から平成23年1月1日の大雪により、鳥取県の国道9号において、タンクローリーの立ち往生をきっかけに、約1,000台の車輛が立ち往生し身動きがとれなくなっています。
- **普段雪が降らない地域においても、突然の大雪による立ち往生等に警戒が必要**です。
- **不要不急の外出は避けていただくとともに、やむを得ず運転する場合には、冬用タイヤやチェーン等を早めに装着**して下さい。

## 【1. 今後の気象の見通し】

### 平成27年1月3日頃にかけての暴風雪と大雪

#### 【気圧配置】



平成27年1月1日21時(予想)

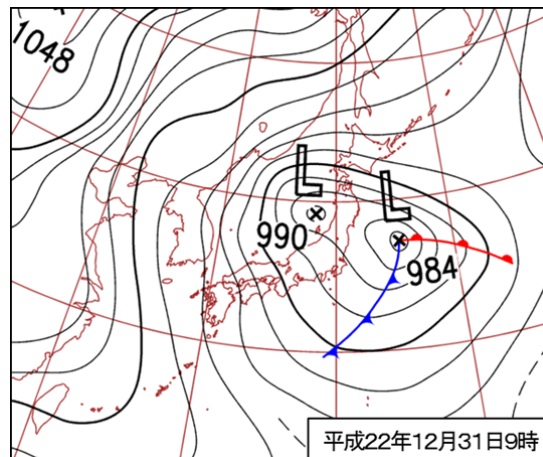
#### 【気象概況】

- 31日は低気圧が日本海で急速に発達しながら東へ進み、その後、1月1日から3日頃にかけて、日本の上空に強い寒気が流れ込み、日本付近は強い冬型の気圧配置となる見込み。
- この影響により、31日から1日にかけて、東北地方から西日本の沿岸部を中心に非常に強い風が吹き、日本海側では猛ふぶき、海は大しけとなる見込み。その後、1日から3日頃にかけて、北日本から西日本の日本海側を中心に大雪や猛ふぶきとなり、西日本の太平洋側や東海地方の平地でも雪雲が流れ込み、積雪となる所がある見込み。

## 【2. 類似の気象条件における被災事例】

### 平成22年12月31日から平成23年1月1日にかけての大雪

#### 【気圧配置】



平成22年12月31日9時

#### 【気象概況】

- 平成22年12月31日は、日本海中部と関東の東海上の低気圧が北東に進み、平成23年1月1日にかけて、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。
- この影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に大雪となった。

<大雪のため、大規模な立ち往生が発生 約1,000台>

- 平成22年12月31日から平成23年1月1日にかけて、北日本から西日本の広い範囲で降雪、山陰地方でも、鳥取県で1日の降雪量が年間の降雪量を上回る90cm近くの大雪となった。
- 国道9号でタンクローリーの立ち往生をきっかけに、約1,000台の大規模な立ち往生が発生。
- 車両の移動および通行止め解除に約2日を要した。



立ち往生の状況

